出雲国風土記に記された最古の神山

松江市美保関町の地蔵崎から大山を望む

大山開山1300年の歴史

修験の山

大山は、古くは「出雲国風土記」に火神岳として登場します。寺伝によると、奈良時代の718（養老2）年、金蓮上人が地蔵菩薩を祭って大山寺が開かれました。

鎌倉時代に成立した「大山寺縁起」には、「出雲の国玉造の依道が金色のオオカミを追って大山に入り、弓矢を射ろうとしたその時、地蔵菩薩が現れ、依道は殺生を悔いて仏道に帰依、金蓮上人と名を改めたと記されています。

大山では、自然を神として崇める山岳信仰に、地蔵菩薩を本尊とする仏教が融合し、神仏習合の神として、大智明権現が祭られました。平安後期には修験の山として知られ、12世紀初めに成立した説話集「今昔物語集」にも大山の地蔵信仰の広がりを見ることができます。

山内には中門院、南光院、西明院の三つの集団があり、勢力争いが絶えませんでした。往時、100を超す僧坊があり、僧兵は3千人を数えたといいます。戦乱とともに荒廃した山内を立て直したのが比叡山の高僧でもあった豪円で、江戸幕府から寺領3千石の安堵を得ます。

しかし明治維新政府の「神仏分離」政策により、1875（明治8）年、大山寺号が廃止されます。1903（同36）年に寺号復活が許され、現在は参拝諸堂4カ所・支院10カ院でその法灯を守っています。

大山寺に残される歴史的資料は消失などによって多くはありませんが、近年、発掘調査によって多くの堂舎、僧坊跡が確認され、往時の隆盛を伝えています。

大山牛馬市

2016年、大山の歴史と文化を物語る「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」が日本遺産に認定されました。

大山は牛馬信仰が盛んでした。平安末期の修験僧である基好上人が、地蔵菩薩は牛馬の守護神であると唱えたことに始まります。

大山が牛馬を連れた参詣者でにぎわうようになると、牛馬の交換、売買が始まり、江戸中期には大山寺が牛馬市「大山博労座」の経営に乗り出します。市は、春の大祭などに合わせて年に数回開かれ、日本三大牛馬市の一つに数えられました。明治期には年間1万頭以上を扱い、日本最大規模にまで発展します。しかし時代の流れとともに1937（昭和12）年を最後に幕を閉じました。

大山道

参詣者たちが、牛馬を連れて大山へたどった道は総称して「大山道」と呼ばれていました。因幡方面からたどる「溝口道」「日野道」「日野道」と、大山寺を中心に延び高道」「隠岐や米子から上る「坊領道」「尾る5本の主要な道がありました。道の起点や分岐点には、道標や常夜灯、一町地蔵が置かれ、今も往来の面影を残しています。

江戸後期の国学者・衣川長秋の旅日記「やつれ養の日記」によれば、中国地方を中心に、東は但馬や播磨、南は讃岐など、13国より集い来たる「人と牛馬で博労座はあふれたといいます。

大山信仰は特に山陽であつく、大山（大仙）権現を祭る社寺が建立され、今も大山詣りが盛んです。

大山寺本堂横内にある「宝牛」。一つだけなに念じてなでると願いごとがかなうという。牛の霊を慰めるため1936年に岡山市の宗教団体が寄贈した

文学に見る大山

大山の運浄院に投宿した志賀直哉は「暗夜行路」の最終章で、そのクライマックスを大山の雄大な夜明けのシーンとともに描きました。

大山には与謝野鉄幹・晶子や高浜虚子、大町桂月など多くの文人が訪れ、作品に残しました。また明治の文豪、小泉八雲は松江から仰ぎ見た大山を描きまく残されています。

大山寺周辺には文学碑などが数多

名刀を生んだたたら製鉄

反りのある日本刀では日本最古級の名匠として知られるのが、伯耆国が生んだ平安中期の刀工・伯耆安綱（やすつな）です。「安綱」作の「童子切」は日本刀の最高傑作といわれ、国宝として東京国立博物館に所蔵されています。

大山を中心とする山麓では、真砂砂鉄といわれる純度の高い鉄が多く採れることから、たたら製鉄が盛んで、良質な玉鋼が名刀を生んだのです。

今年1月、春日大社（奈良市）所有の太刀が、平安末期の「古伯書物」と呼ばれる最初期の日本刀であることが分かりました。「安綱」作の可能性が高く、にわかに「安綱」への関心が高まっています。

日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」

2016年に認定された「大山山麓の歴史と文化を物語るスケール」。大山寺は、国引き神話に登場する神山である。大山そこに祭られた地蔵信仰をもとに栄えた馬市、遠く参詣にたどった大山道、大山信仰の中で暮らす人々などが彩られる。

大神山神社奥宮、大山寺本堂、大山道、大山おこわ、もひとり神事ほか、米子市内の旧加茂川の地蔵などがストーリーの構成要素に盛りあがまれている。

日本遺産は、訪日外国人旅行者の誘客などを狙いに15年度から全国100地域をめどに政府が認定を進めている。

官民一体で守る環境

雄大な自然、彩りを増すアクティビティー

山を守る活動の聖地・大山

8月11日が国民の祝日「山の日」となって今年で3年目になります。大山は祈りの山であると同時に、麓に暮らす人々がその恵みに感謝し、保全に力を注いだ山です。その大山の地で今年8月、「第3回「山の日」記念全国大会」が開かれます。

大山は、1936（昭和11）年に国立公園に指定されると、広く全国に知られるようになり、60年代以降は登山ブームに沸いて大勢の登山客を集めました。しかし、それに伴って、頂上周辺から高山植物などの緑が消え、裸地化が進むという問題が起きました。

立ち上がったのが大山を愛する人たちでした。「大山の美化を推進する会」や「大山の頂上を保護する会」などが結成され、85年から「一木一石運動」という、植生復元のための苗木や浸食溝埋め戻しのための石を頂上に持って上がる地道な活動が始まったのです。

活動から30年以上がたち、山頂の緑は大幅に復元することができましたが、大切な山を守り続けるため、今もなお活動を継続し、さらに官民一体となって大山周辺の環境を保全しています。

大山の自然を体感するアクティビティー

海岸線から頂上までは直線距離にしてわずか約20キロ。このことが、中国地方最高峰である大山にダイナミックさを与えています。山頂からの眺望は、眼下に日本海、弓浜半島が楽しめます。同様にスキー場のロケーションも類を見ないものです。

近年は、大山中腹から日本海まで自転車で下るダウンヒルサイクリングが、「アクティビティー」として人気を呼んでいます。日本海から大山頂上までカヤック、自転車、登山で駆け抜けるスポーツイベント「シートゥ・サミット」も注目を浴びています。

また人気の高い星空観察は、空気が澄んでいることが条件の一つです。人工の明かりを離れ、すぐに足が運べる大山はまさに最適地。雄大な大山の懐に抱かれ、満天にきらめく表情豊かな星を観察することがいとも簡単に楽しめるのです。

西日本最大規模のブナ林

神仏おわす大山は、1889（明治22）年に入山規制が解かれるまで、植生が守られてきた山でした。標高700メートル付近から見られる緑のダムともいわれるブナ林は西日本最大規模です。たくわえられた雨水は、地下の土や岩石の層を通る際、ミネラルを取り込んでおいしい水となります。ミネラル豊富な水が川を下って海に流れ込み、山の幸だけでなく海の幸をも育むのです。

大山中腹のブナ林の再生に取り組んでいる「大山横手道上ブナを育成する会」は、次代を担う小学生や親子連れと一緒になって苗木の育成や植林などの活動を行っています。

大山開山から1300年の営みを今に受け継ぐ私たち。その豊かな恵みと暮らしは「大山さん」と共にあります。

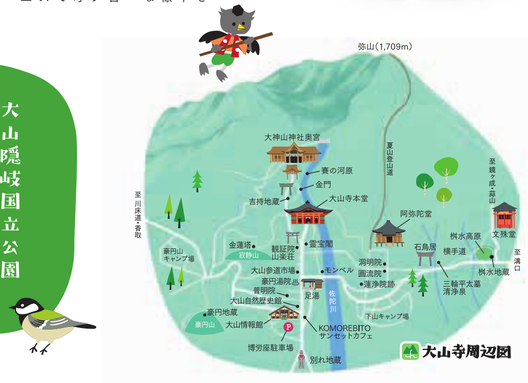
緑が復元した大山山頂

登山者の手によって頂上へ石などを運ぶ「一木一石運動」が続けられている

夏山開きで頂上を目指す大勢の登山客

大山隠岐国立公園

1936（昭和11）年2月、鳥取県の大山地域1万2403ヘクタールが、大山国立公園と指定されたのが最初。63年に島根県の隠岐や三瓶山周辺地域、岡山県の蒜山地域を加えて鳥取県の三徳山地域が編入された。大山は、中腹一帯にかけて広大なブナ林が分布、山頂付近は特別天然記念物のダイセンキャラボクの群落が広がる。



船上山

大山隠岐国立公園内にあり、「原風景」と呼ばれる高さ約60～100ｍの垂直に近い断崖が特徴の雄大な山。平安初期から山岳仏教が栄え、大山、三徳山とともに「伯耆三嶽」に数えられる。

所 琴浦町山川　問 0858-55-7811（琴浦町観光協会）

大山滝

「日本の滝百選」の一つ。昭和初期までは三段滝だった。一向平から遊歩道が整備されている。片道約30分。途中、吊り橋もあり、森林浴が楽しめる。

所 琴浦町野井倉　問 0858-57-2100（一向平キャンプ場）

鍵掛峠

大山の南麓を眺める絶景ポイント。毎年紅葉の時期には多くの観光客でにぎわう。ブナ林が織り成すじゅうたんと、険しい山肌とのコントラストが見るものを圧倒する。

所 江府町大河原　問 0859-75-6007（江府町観光協会）

大山夏山登山道

一般登山者に親しまれている登山道。ブナ林を抜け、6合目からはガレ場を登る。9合目付近からダイセンキャラボクの群落が広がり水道をたどる。頂上は大パノラマの眺望。
※登山の際には登山届を提出。

所 大山町大山　問 0859-52-2502（大山観光案内所）

三徳山

706（慶雲3）年、役行者によって開かれた山岳仏教の霊場。麓には天台宗の古刹三佛寺。断崖絶壁に投げ入れたように建つ国宝の投入堂は圧巻だ。

参拝登山受付 8:00-15:00
（本堂参拝は17:00まで）
参拝登山志納金：大人800円、小中学生400円
（本堂までの参拝は大人400円、小中学生200円）

所 三朝町三徳　問 0858-43-2666（三佛寺）

木谷沢渓流

「水」と「ブナ」の奥大山を象徴するポイント。散策道を沢伝いに進むと、せせらぎの音と小鳥たちの鳴き声が静かに響きわたる。幽玄の世界に踏み入れたかのような感覚が味わえる。

所 江府町御机　問 0859-75-6007（江府町観光協会）

地蔵滝の泉

「平成の名水百選」に選ばれた大山恵みの水。佐陀川のほとりにある、湧き出る水は年間を通じて11度に保たれ、日量19.4万ℓに上る。この地域で生産される八郷米は高い評価を得ている。

所 伯耆町丸山　問 0859-68-4211（伯耆町役場）

桝水高原

まさに優しい伯耆富士の山容が広がる。地下水の湧水があり、「真清水」と呼ばれて重宝されていたが大干ばつに遭い、江戸中期、その跡地に「桝水地蔵」が建立された。7月に桝水地蔵尊祭りを開催。

所 伯耆町大内桝水高原　問 0859-68-4211（伯耆町役場）

大山道（川床道）

大山道の一つで、かつて倉吉方面からの参詣者や牛馬を引く博労が通った。近世に駕籠者が整備した石畳が残る。枝道の一息坂神（大山町）では、春の例大祭に足を運ぶ参拝者への接待が江戸期から今も続けられている。

豪円山

標高891ｍ。山頂には、大山寺中興の祖で豪円を祭った地蔵がある。尾根伝いには2世から8世までの大山座主の供養墓が並ぶ。中腹ののろし台から眺める大山北壁は絶景。

所 大山町大山　問 0859-52-2502（大山観光案内所）

大山寺本堂

中門院の元の大日堂。神仏分離後、本尊地蔵菩薩を祭って大山寺本堂に。1928年の火災で焼失後、51年に再建。天台宗別格本山。

参拝：9:00-16:00（4月-11月）
志納金：大人300円、小中200円
（宝宝閣拝観料含む）

所 大山町大山9　問 0859-52-2158（大山寺）

大山寺阿弥陀堂

大山寺最古の建築物で室町末期の1552年に現在地に再建された。国の重要文化財である木造阿弥陀三尊像を安置。本尊の阿弥陀如来は高さ2.67ｍ。

拝観：毎月18日9:30-15:30（4月-11月）
志納金：200円
※拝観には事前申し込みが必要（毎月18日一般公開）

所 大山町大山　問 0859-52-2158（大山寺）

吉持地蔵

大山寺山内には多くの地蔵が立つ。吉持地蔵は、石田村（現用部町田住）の豪農吉持家が1618年に長老原台地の開墾を思い立ち、用水路の開削を進めたが難航したため寄進して加護を願った。自然石に刻まれた唯一の地蔵。

寂静山から望む大山北壁

寂静山

大山を開いた金蓮上人入寂の山。大神山神社奥宮の石畳の参道から北に折れて登る。頂上には金蓮塔があり、北壁の眺めだけでなく、野鳥観察にも最適。

所 大山町大山　問 0859-52-2502（大山観光案内所）

大山寺宝物館 霊宝閣

大山寺の貴重な宝物を収蔵。白鳳期の観世音菩薩像や鉄製厨子、不動明王坐像などを見ることができる。

公開：9:00-16:00（4月-11月）
拝観料：大人300円、小中200円
（大山寺本堂志納金含む）

所 大山町大山　問 0859-52-2158（大山寺）

大神山神社奥宮

明治の神仏分離まで、大智明権現を祭る大智明権現社。権現造りでは国内最大級の建築。本殿建築は1701年。現社殿は、焼失後1805年に再建。祭神は大己貴神。本社は米子市尾高。

所 大山町大山1　問 0859-52-2507（大神山神社奥宮）